

グループ討議 課題

テーマ：機関リポジトリの周知とコンテンツの
拡充

グループ名 [4D]

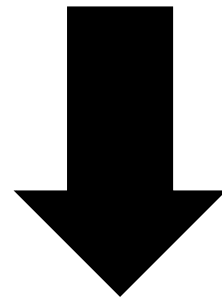
2018年度機関リポジトリ新任担当者研修

JPCOAR オープンアクセスリポジトリ推進協会



課題

1. 機関リポジトリを充実させるために、どのように学内(教職員・学生)に周知したらよいか
2. コンテンツの範囲をどのように拡充し、コレクションを形成するのか



全学的取組が必要

- 学内制度、ルールの確立
- 効果的な周知方法
- コンテンツ拡充

具体的解決策① 学内制度・ルール の 確立

設置

- 全学で対応できる組織(リポジトリ委員会等)の設置

→委員長=学長、など

策定

- リポジトリ運用規則、コンテンツ収集方針の策定

→運用・収集しやすい内容

連携

- 紀要投稿規定の整備
- 紀要編集部署(委員会)等との連携や情報共有

協力

- 全学的な位置づけとすることで、学内周知やコンテンツ収集を容易にする

具体的解決策②効果的な周知方法

宣言

- 全学的取組としてリポジトリを構築することを宣言

→大学全体で取り組む事業という共通認識

周知

- 教授会や学内連絡網で周知
- ポスター掲示、HPのわかりやすいバナーリンク

→教員・職員双方への周知が必要

説明

- 数回にわたって説明会を開催(FD・SD・オリエンテーション)
- 温度差のある教員へのアプローチ

継続

- リポジトリ効果の定期的なアナウンス(ランキング、各種統計等)
- 今後の動向などを継続してアナウンス

→興味を持続させる

具体的解決策③コンテンツの拡充

策定

- 大学として、どのようなコレクションにしたいのか、規定やガイドラインを明確にする

開始

- できるところから開始し、段階的にコンテンツを充実させる

→新規紀要や博士論文など

収集

- 興味を示す教員からアプローチ
- 説明会の開催

→一回取りあげて終わりではない

発展

- 投稿しやすい環境を整備
- 追加された論文の通知

→リポジトリの状況を可視化

結論

策定

- 組織、規定、方針など土台を整備
→ 継続して構築していけるよう全学的な組織作りを行い、担当者が変更になっても同様の活動可能な規定、方針の策定を行うことによって、周知、拡充につなげることができる

周知

- 説明会の開催(定期的に)
→ 説明動画などを利用し、教職員全体で情報と必要性を共有
- ポスターやHPバナーの作成
→ 視覚的に訴え、印象づける
- 図書館スタッフへの周知
→ 担当部署として情報を共有

理解

- OA化の必要性、大学の社会的役割
→ 科研費論文のOA化の原則、文科省の学位規則改正の具体的な動向を示し、理解を促す
- リポジトリの状況を可視化
→ 掲載状況、DL数などを適宜通知し、有用性を示す

協力

- アイデアや協力の呼びかけ
→ 温度差がある教職員も含めて、継続的なサポートと、アイデアや協力の呼びかけを行い、リポジトリ構築の一員であることを訴える
- 協力しやすい状況を作る
→ 協力者に負担がかからないような方法、状況を作る

大学全体でリポジトリの構築を支え、利活用していくことにより、さらに充実したコレクションを構築できる。